

1. 総合科目の目的

「神秘的なのは、世界がいかにあるかではなく、世界があるということである。」
(ウイトゲンシュタイン『論理哲学論考』)

20世紀の哲学者ウイトゲンシュタインのこの言葉にもあるように、世界があるということ、この当たり前に思われる事実こそ、本当の謎があり、なぜこの世界があるのか、その答えのなさ、不思議さ、まさにこの神秘を前にしては、人は、絶句し、驚きを覚えるほかはないのでしょうか。

自然や社会、文化を含め、人が生きるこの世界、そしてこの世界で生きるための人の生き方については、様々な世界観や価値観がなりたっています。「この世界がいかにあるか」という世界観や価値観、そうした既成の知識や価値を基準にして、人は、それぞれの社会生活を営み、それぞれの人生設計を思い描くことができているわけです。

だとしても……、それだけではけっして安心していられるものとはいえません。

「なぜ」、その世界観や価値観がなりたつのか、「ということ」、この「問い」が、いつまでも、どこまでも残されてくるのではないのでしょうか。そもそも、人がこの世で生きるという営みがそれぞれの社会や文化で通用している世界観や価値観のための機能や手段に終わってしまっているのではなく、各自が人間らしく生きること、それ自体が人の生きる目的であるはずだからです。

総合科目は、自然や社会、文化を含めた、この世界の多角的、多面的なありようと、そこに生きる人間の、このような答えのないあり方、これを根本から問いかけなおす講座とともに、ますます複雑化し不透明化する社会に対応するために、専門科目とも相互に関連する高度で学際的な講座を多数設置しています。

人文科学・社会科学・自然科学の各分野にわたる講座のなかで、人間、思想、社会、文化、環境をめぐる様々な知や問いのあり方を相対化する視点をも身につけることで、自ら主体的に考えることのできる能力を学習してゆきます。これらの講座を通して、幅広い視野と、柔軟かつ主体的な思考力、総合的な判断力や高い倫理観、豊かな感性や、未来を創造しようとする気概、そうした強靱な知性や豊かな人間性が養われることでありましょう。

「いかに」を鵜呑みにするのではなく、「ということ」のなぜを問いなおすことのできる能力、このような総合的な知性や人間性を高めていくことこそが、教養です。

総合科目は、この教養を糧に、生涯にわたって、自らの持ち場で適切に判断し、行動する力を身につけ、現代社会の様々な問題に立ち向かうことのできる市民の育成を目的としています。

2. 総合科目の特色

< 4年間を通じた教養形成 >

以上述べたような目的に沿って、総合科目の各科目では、人の生き方や社会の理想をどのように考えるか、文化や社会の多様性と普遍性を認識し、他者との共生をどのように実現するのか、人間と自然との調和をどのように図るのか、といった人間や社会、自然に関する根本的な「問い」について考えていきます。

このような「問い」に導かれた総合科目での学習経験は、専門科目の学修に與行

きと深さを与えていくでしょう。また、こうした「問い」の重要性は、専門科目の学修のなかであらためて意識されるのであり、それは総合科目をさらに深く学んで行く動機となります。専門科目とのそうした往復や関連を見据えながら、総合科目のカリキュラムは、それぞれの学科における学修によって専門性を高めていくプロセスと並行して、前述したような意味での教養が身につけられるように設計されています。

<系統的・段階的学修のための履修モデル>

総合科目で開講される多様な科目をどのように履修し、学修を進めていけばよいか迷う学生もいます。学修を系統的・段階的に進めていけるよう、「総合科目履修モデル」を用意しています（表1）。

3つのコースを設けており、それぞれの関心や専門科目との関連、将来の志望等に依じてコースを選択し、後述する履修方法にしたがって履修することが推奨されています。

コースA「哲学と思想」は、学問の基礎となるような哲学的・論理的思考を鍛えるとともに、人間と社会の理念・理想を問う哲学や思想を学ぶコースです。

コースB「社会と文化」は、自・他の社会への理解を深めるために、文化の視点からアプローチする方法を学ぶコースです。

コースC「人間と環境」は、人間科学と環境科学の学修を通じ、自身の人間的成長と持続可能な地球社会を構想する力を身につけるコースです。

各コースには、総合科目の学修体系の基盤となる**教養基幹科目**と、教養の充実・発展を図る**教養形成科目**、そして少人数による対話的・主体的な学修により教養の進化を図る**教養演習科目**が配置されており、それらの履修を積み上げていくことで、各コースの学修を深化させることができます。

<総合講座と留学生科目>

総合講座は、特定のテーマについて、分野の異なる複数の教員に加え、学外の専門家や現場で実務に携わる方などゲストスピーカーを招き、それぞれの視点から論じていくオムニバス形式の講義です。

外国人留学生のための講義科目も用意されています。少人数の教室で、留学生の日本語能力に対応しながら、日本の文化、社会、自然に関する基本的な知識を習得できます。

表1 総合科目履修モデル

コース/科目群・履修推奨年次		教養基幹科目		教養形成科目		教養演習科目	
		1年次前期の履修を推奨		1年次後期～3年次の履修を推奨		2～4年次の履修を推奨	
A 哲学と思想	知の基礎となる哲学的・論理的思考を鍛えるとともに、人間と社会の理念・理想を問う哲学・思想を学ぶ	哲学Ⅰ	倫理学Ⅰ	哲学Ⅱ	倫理学Ⅱ	教養演習A	教養演習B
		論理学Ⅰ	宗教学Ⅰ	論理学Ⅱ	宗教学Ⅱ	文章表現演習Ⅰ	文章表現演習Ⅱ
		数学Ⅰ		数学Ⅱ			
				科学の歴史Ⅰ	科学の歴史Ⅱ		
				社会思想の歴史Ⅰ	社会思想の歴史Ⅱ		
				思想文化論A	思想文化論B		
B 社会と文化	社会システムに影響を与える文化構造にアプローチする方法を学び、自他の社会と文化への理解を深める	社会学Ⅰ	日本の近現代Ⅰ	社会学Ⅱ	日本の近現代Ⅱ	教養演習A	教養演習B
		日本の前近代Ⅰ	アジアの歴史Ⅰ	日本の前近代Ⅱ	アジアの歴史Ⅱ	文章表現演習Ⅰ	文章表現演習Ⅱ
		西洋の歴史Ⅰ	文化人類学Ⅰ	西洋の歴史Ⅱ	文化人類学Ⅱ		
		日本文学Ⅰ	世界の文学Ⅰ	日本文学Ⅱ	世界の文学Ⅱ		
		地理学Ⅰ	統計学Ⅰ	地理学Ⅱ	統計学Ⅱ		
				芸術論Ⅰ	芸術論Ⅱ		
				社会文化論A	社会文化論B		
				総合講座B			
C 人間と環境	人間と環境に関する科学の学修を通じ、自身の成長と持続可能な地球社会を構想する力を身につける	心理学Ⅰ	教育学Ⅰ	心理学Ⅱ	教育学Ⅱ	教養演習A	教養演習B
		環境論Ⅰ	地理学Ⅰ	環境論Ⅱ	地理学Ⅱ	文章表現演習Ⅰ	文章表現演習Ⅱ
		健康科学Ⅰ	体育スポーツ科学Ⅰ	健康科学Ⅱ	体育スポーツ科学Ⅱ		
		地球科学Ⅰ	生命の科学Ⅰ	生命の科学Ⅱ	地球科学Ⅱ		
		統計学Ⅰ		精神分析学	自然人類学		
				統計学Ⅱ	総合講座B		
				※日本の自然A	※日本の自然B		

注) 日本の文化A・日本の文化B, 日本の社会A・日本の社会B, 日本の自然A・日本の自然Bは, 外国人留学生のみを対象とした科目です。また, 太字の科目は複数のコースに配置されています。

3. 総合科目の学修

<総合科目は選択必修>

卒業のためには、総合科目を20単位取得することが必要です。「Ⅱ群 総合科目履修表」(表2)の中から科目を自由に選択することができます。なお、科目の選択に際しては、必ずシラバスを参照して、その年度における具体的な講義内容を調べるのが必須です。

<推奨される履修方法>

科目を自由に選択できるといわれても、どのように選択してよいか迷う学生もいることでしょう。また前述のように、総合科目を系統的・段階的に履修することも重要です。そのため、以下のような履修方法を推奨しますので、参考にしてください。

- ① 教養基幹科目の履修: 「総合科目履修モデル」におけるA・B・C各コースの教養基幹科目から最低1科目ずつ(計6単位取得)履修して、幅広い教養を身につける。1年前期の履修が望ましい。
- ② コースの選択と履修: 「総合科目履修モデル」におけるA・B・Cのコースの中から、各自の関心や希望する専攻、将来の志望などを勘案して一つのコースを選択し、表の推奨履修年次にしたがって、各コース科目を計画的に履修する。

<任意科目としての履修>

前述のように、総合科目を20単位修得することが必要ですが、これは卒業のための最低条件であって、各学科の任意科目として総合科目の単位を取得すれば、学科ごとの上限まで卒業必要単位に算入することができます。総合科目を4年間にわたって積極的に履修し、充実した人生を送るために必要な教養を完成させてください。

表2 II群 総合科目履修表(各学科共通)(◎印=必修科目 ○印=選択必修科目 ●印=選択科目)

授 業 科 目	単位数	履 修 開 始 年 次								履 修 方 法
		1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期	
哲学Ⅰ	2	●								20単位以上を修得しなければならない。 ただし、日本の文化A・B、日本の社会A・B、日本の自然A・Bは外国人留学生のみ履修できる。
哲学Ⅱ	2		●							
論理学Ⅰ	2	●								
論理学Ⅱ	2		●							
倫理学Ⅰ	2	●								
倫理学Ⅱ	2		●							
宗教学Ⅰ	2	●								
宗教学Ⅱ	2		●							
日本文学Ⅰ	2	●								
日本文学Ⅱ	2		●							
世界の文学Ⅰ	2	●								
世界の文学Ⅱ	2		●							
芸術論Ⅰ	2	●								
芸術論Ⅱ	2		●							
日本の前近代Ⅰ	2	●								
日本の前近代Ⅱ	2		●							
日本の近現代Ⅰ	2	●								
日本の近現代Ⅱ	2		●							
アジアの歴史Ⅰ	2	●								
アジアの歴史Ⅱ	2		●							
西洋の歴史Ⅰ	2	●								
西洋の歴史Ⅱ	2		●							
社会思想の歴史Ⅰ	2	●								
社会思想の歴史Ⅱ	2		●							
科学の歴史Ⅰ	2	●								
科学の歴史Ⅱ	2		●							
社会学Ⅰ	2	●								
社会学Ⅱ	2		●							
文化人類学Ⅰ	2	●								
文化人類学Ⅱ	2		●							
地理学Ⅰ	2	●								
地理学Ⅱ	2		●							
環境論Ⅰ	2	●								
環境論Ⅱ	2		●							
教育学Ⅰ	2	●								
教育学Ⅱ	2		●							
心理学Ⅰ	2	●								
心理学Ⅱ	2		●							
精神分析学	2	●								
自然人類学	2	●								
健康科学Ⅰ	2	●								
健康科学Ⅱ	2		●							
体育スポーツ科学Ⅰ	2	●								
体育スポーツ科学Ⅱ	2		●							
数学Ⅰ	2	●								
数学Ⅱ	2		●							
統計学Ⅰ	2	●								
統計学Ⅱ	2		●							
地球科学Ⅰ	2	●								
地球科学Ⅱ	2		●							
生命の科学Ⅰ	2	●								
生命の科学Ⅱ	2		●							
日本の文化A	2	●								
日本の文化B	2		●							
日本の社会A	2	●								
日本の社会B	2		●							
日本の自然A	2	●								
日本の自然B	2		●							
総合講座A	2	●								
総合講座B	2		●							
社会文化論A	2	●								
社会文化論B	2		●							
思想文化論A	2	●								
思想文化論B	2		●							
文章表現演習Ⅰ	2	●								
文章表現演習Ⅱ	2		●							
教養演習A	2	●								
教養演習B	2		●							

総合科目領域 教育課程の編成及び実施に関する方針

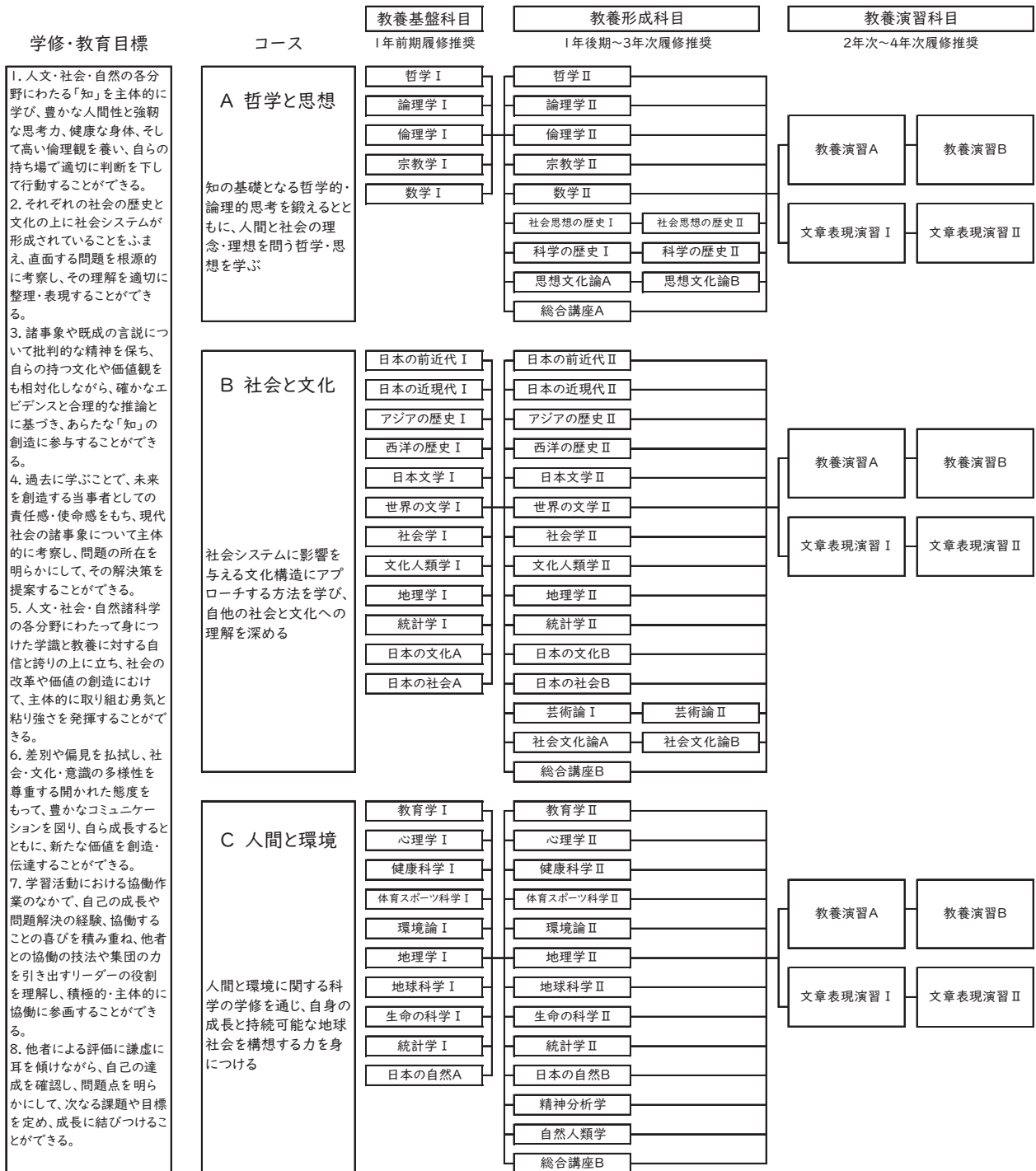
卒業の認定に関する方針		教育課程の編成及び実施に関する方針
構成要素 (コンピテンス)	能力 (コンピテンシー)	
豊かな教養・知識に基づく高い倫理観	〔DP-1〕 社会人として必要な教養と社会科学の知識を修得し、法令遵守の精神と高い倫理観に基づいて、自らの使命・役割を果たすことができる。	〔CP-1〕 ・人文・社会・自然の各分野にわたる「知」を主体的に学び、豊かな人間性と強靱な思考力、健康な身体、そして高い倫理観を養い、自らの持ち場で適切に判断を下して行動する力を育成する。
日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	〔DP-2〕 日本及び世界の法、政治、行政、経済及びジャーナリズムの仕組みと、それが直面している問題を理解し、説明することができる。	〔CP-2〕 ・それぞれの歴史と文化、自然条件等を踏まえて社会システムを理解し、それぞれの社会や国際社会が直面する問題の構造を根源的に考察し、その理解を適切に整理・表現する力を育成する。
論理的・批判的思考力	〔DP-3〕 社会科学の基礎的知識を基に、論理的、科学的、合理的かつ批判的な考察を通じて、新たな「知」の創造に寄与することができる。	〔CP-3〕 ・諸事象や既成の言説について批判的な精神を保ち、自らのもつ文化や価値観をも相対化しながら、確かなエビデンスと合理的な推論とに基づき、あらたな「知」の創造に参与する力を育成する。
問題発見・解決力	〔DP-4〕 社会・共同体のさまざまな営みに自ら積極的にかかわる中で、事象を注意深く観察して問題を発見し、解決策を提案することができる。	〔CP-4〕 ・過去に学ぶことで、未来を創造する当事者としての責任感・使命感をもち、現代社会の諸事象について主体的に考察し、問題の所在を明らかにして、その解決策を提案する力を育成する。
挑戦力	〔DP-5〕 法規範をはじめとする社会システムに関する専門的知識を基に、あきらめない気持ちをもって、より良い社会・共同体の創造に果敢に挑戦することができる。	〔CP-5〕 ・人文・社会・自然諸科学の各分野にわたって身につけた学識と教養に対する自信と誇りの上に立ち、社会の改革や価値の創造にむけて、主体的に取り組む勇気と粘り強さを育成する。
コミュニケーション力	〔DP-6〕 多様な伝統・文化・環境に育まれた他者の気質、感性及び価値観を理解・尊重し、社会・共同体の中で積極的にコミュニケーションを実践し、自らの考えを伝えることができる。	〔CP-6〕 ・差別や偏見を払拭し、社会・文化・意識の多様性を尊重する開かれた態度をもって、豊かなコミュニケーションを図り、自ら成長するとともに、新たな価値を創造・伝達する力を育成する。
リーダーシップ・協働力	〔DP-7〕 社会・共同体のさまざまな活動において、より良い成果を上げるために、お互いを尊重し、自らすすんで協働するとともに、リーダーとして協働者の力を引き出し、その活躍を支援することができる。	〔CP-7〕 ・学習活動における協働作業のなかで、自己の成長や問題解決の経験、協働することの喜びを積み重ね、他者との協働の技法や集団の力を引き出すリーダーの役割を理解し、積極的・主体的に協働に参画する意欲を育成する。
省察力	〔DP-8〕 他者からの評価を謙虚に受け止め、自己の活動がより良い社会・共同体の創造に貢献することができたかを振り返ることにより、生涯にわたり、社会人としての自己を高めることができる。	〔CP-8〕 ・他者による評価に謙虚に耳を傾けながら、自己の達成を確認し、問題点を明らかにして、次なる課題や目標を定め、成長に結びつける力を育成する。

〔C P〕 カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成及び実施に関する方針

〔D P〕 ディプロマ・ポリシー：卒業の認定に関する方針

表3 総合科目履修系統図

◆総合科目（教養基幹科目・教養形成科目・教養演習科目から計20単位以上）



◆体育・健康科目（計2単位必修）

